

応用環境システム学専攻

アドミッション・ポリシー

1. 受け入れる学生に求める関心・意欲

海を知り、守り、利用する観点から、海洋環境の調査や保全・修復のテクノロジー、海上輸送と港湾における物流、エネルギーの高効率利用に関わる先進の科学技術について、多面的思考を以って取り組むことによって問題解決に至る能力を有する学生を求めます。

2. 受け入れる学生に求める学修成果

(1) 専門的学識

自立した研究者として応用環境システム学領域における諸課題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得

(2) 豊かな国際性と幅広い教養

異分野との協働や英語による情報発信などグローバルに活躍する人材に求められる応用環境システム学領域に関する幅広い教養と国際的・文化的素養

(3) 自ら考え判断し表現する能力

社会的背景を踏まえ、応用環境システム学領域に関する解決すべき課題について論理的に思考し、問題解決に向けた適切なアプローチができる基礎的な能力

(4) 現場で通用する実践力

応用環境システム学領域に関する自分の考えをわかりやすく他者に伝える表現力や、積極的に他者と交流するコミュニケーション能力と社会に対する責任感

3. 入学者選抜での評価方法

入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、進学者選考、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。

・一般選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・進学者選考

学力検査の結果をもとに総合的に評価を行う。

・社会人特別選抜

学力検査、業績評価、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別選抜

学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。

・外国人留学生特別推薦選抜

書類審査または口述試験により総合的に評価を行う。

カリキュラム・ポリシー

1. 教育課程編成の方針

応用環境システム学に関連する高度に専門的な知識を総合的・学際的に修得させるために、環境システム学に関する高度に専門的な基礎科学と応用科学を修学するカリキュラムを編成・実施します。

2. 教育課程実施の方針

(1) 特別演習・実験研究・博士論文作成および学術雑誌への論文投稿を通じた教育や実践的教育を介して、ピアレビューできる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的・効果的説明能力、学術研究における倫理性、自ら課題を発見し解決する能力を修得させます。

(2) セミナー参加を通して、自己の研究成果とその意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて協力体制を構築できる能力を育てます。

ディプロマ・ポリシー

1. 目指すべき人材像

海洋環境の解明・利用・保全に関する学理と技術に関連する学際領域の開拓と教育研究を行い、海流の変動機構・物質拡散の計測と予測、資源探査技術の創出、海洋生物と環境の関わり、安全効率的な海上交通輸送システムの構築、先端推力システムの開発、海洋管理政策提言等を対象とし、海と人間の共生の観点から総合的な能力を持ち、指導的な立場に立てる人材の養成を目指します。

2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標

(1) 応用環境システム学の各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した学術論文を主体的に作成する能力

(2) 応用環境システム学の基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度に専門的な知識

(3) ピアレビューできる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的・効果的説明能力、学術研究における倫理性

3. 修了認定の要件

所定の単位を修得し、上記2に掲げる能力、素養を有するとともに、学位論文の審査および最終試験において、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性および応用的価値

を有していることが認められた者に対して修了を認定し、博士（海洋科学または工学）の学位を授与します。